

新型コロナウイルスの感染症拡大が全国的に心配される中、本日無事に第2学期終業式を迎えることができ、大変うれしく思います。

この2学期の始業式に私から、新しい学校行事の企画や運営に生徒の皆さんの新鮮な発想を反映したいとお願いしました。このことに、例えば農業祭を見ますと、生徒実行委員会の方を中心に見事にその任を果たしてくれたと思います。地域の一般来場者を入れない形は、確かにさみしいものがありました。その分、時間的な余裕が有りじっくり作品を見る時間があったのではないのでしょうか？また、市民会館での2日目についても、講演・プロジェクト発表・吹奏楽部・太鼓部・有志の発表・サウシードッグのトーク&ライブ・抽選会と盛りだくさんで本当に充実していたと思います。このように新しい形が生み出され、来年に繋がるものであったと思います。

この他にも、コロナ禍での学校行事や部活動の大会、発表会など次々と工夫して実施されそれぞれの学年、学科、部活動、生徒会、農業クラブ、家庭クラブなど大きな成果が見られたと思います。その中で一つ紹介したいのは、第66回青少年読書感想文コンクールで最優秀作品に選ばれた食品科学科2年山田さんです。読んだ本は、「線は、僕を描く」、感想文のタイトルは「線を描き続ける」です。審査員の方の講評に「本をよく読み込んでおり、線を描くことの意味を自分なりに捉え、「自分の変化＝自分の描く線の変化」という着眼点が高評価であった。また、自分と相手の関係についての考えがしっかり述べられており、表現・構成がうまく読みやすい感想文だったことも評価された」とありました。私もこの結果を聞いて早速、素晴らしいことだなと思い感想文を読ませてもらいました。審査員の方が評価されていることはもちろんですが、読み終えた後、実に爽やかな気持ちになりました。自分の思いをこんな風に表現できたらいいな、自分を見ている人の心情を鋭くかつ優しく表現され、読みながら何度もうなずきました。そして、高校生らしさもある文章表現に感動しました。年度末には、読書感想文集として、発刊され皆さんの手元に届きますので是非読んでみてください。

文章を書くことについては、この他にも、毎日農業記録賞に4名の方の表彰、セディア財団の「明日の農業コンテスト」に2名と学校奨励賞も頂いています。日頃の読書活動や学習の過程で興味や関心が高まっていくことや自分の将来像についての前向きな考え方、夢や希望などを若い感性と創造力で表現していくことの大切さをあらためて認識したところです。今後もこうした「書き綴る」ことを継続して行っていきましょう。

先日、来年度の生徒会・農業クラブ・家庭クラブの役員を決める選挙が行われました。今年初めて昇降口での賑やかな選挙活動がみられました。立ち会い演説会でも立候補した生徒さんから、具体的な創意工夫や物事をより良い方向に変えていこうとする意欲が感じられる素晴らしい演説でした。全校の皆さんが、来年度に期待の持てる印象を持ったことと思います。

ここまでの私の話から、文章をまとめ書き綴る、意見を発表することは、今年度の重点目標としているコミュニケーション力の育成に繋がります。普段の学校生活の中では、授業での意識した取り組みがあります。それとは違い挨拶など自然に発せられる言葉もあります。このように多くのことが、コミュニケーション力の育成に繋がり、社会に通じる人間力を身に付けることができると思います。

さて、明日からの冬休みに私から皆さんに宿題を出します。もちろんこれもコミュニケーション力育成の観点から、1つ目は、いつもお世話になっている人に「ありがとうございます」という感謝の気持ちを言葉にして伝えることです。2つ目は、感謝の気持ちを家の手伝い、大掃除などどんな小さなことでもよい、感謝の言葉とともに行動で表すことです。この宿題を毎日やって欲しいと思います。

皆さんにとって、そしてご家族の方にとって来年が佳い年となりますように祈念して、私の話を終わります。コロナ対策をしっかりと行い、元気に3学期の始業式に会いましょう。